

保存版

このハザードマップは令和8年に改定して新しくなりました！

京都市

京都市 東山区・下京区

洪水ハザードマップ

平成25年台風第18号による桂川の洪水で被害を受けた嵐山の様子（撮影：428 mm）

京都市洪水ハザードマップについて

「京都市洪水ハザードマップ」は、予想される最も強い雨で市内の川があふれた場合の浸水範囲や深さなどをまとめたものです。

このハザードマップは、大きい河川だけではなく小さい河川の情報も書いています。

このハザードマップは、河川の洪水に対して、皆様に日頃からの備えや安全な避難行動をとっていただくためのものです。

京都市洪水ハザードマップの使い方

（1）水害について知り、身の周りの浸水する場所や、いざという時の避難先や取るべき行動を確認しましょう。

（2）防災についての情報を知り、水害が発生した時に取るべき避難行動や心構えを確認しましょう。

（3）水害に対して日頃からできる備えについて知りましょう。

ハザードマップで対象とする河川の種類

洪水予報河川

京都市では、宇治川・桂川・木津川・鴨川・高野川が洪水予報河川です。

水位周知河川

洪水予報河川以外で、洪水により、国民や経済に重大な被害が生じるおそれがある河川です。大雨のときには、特別警戒水位の到達を通知・周知します。

その他の河川

上の2つ以外の小さい川が多いですが、短時間的大雨でも洪水・浸水被害が生じることがあります。

●地図についてのお問い合わせ

京都市行財政局防災危機管理室 TEL 075-222-3210

●避難場所についてのお問い合わせ

東山区役所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-561-9105

下京区役所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-371-7164

発行：令和8年6月／京都市行財政局防災危機管理室

京都市印刷物 第08057号

水害について知ろう

水害には、この洪水ハザードマップで取り扱う「洪水（外水氾濫）」と「内水氾濫」の2種類があり、この2つは、水害が起きる場所や仕組みが違います。2つの水害を知ること、日頃の備えや水害発生時の正しい避難行動につなげましょう。

内水氾濫がおきるしくみ

内水氾濫は、大雨が降った時に、下水道などから水があふれて浸水する水害です。短時間であっても強い雨が降ったときなどに発生しやすいです。特に水路の近くや、アンダーパスなどの周りよりも低い場所、地下街は内水氾濫が起きやすい場所です。

さらに大雨が続くと洪水（外水氾濫）の危険が高まります

洪水（外水氾濫）がおきるしくみ

洪水（外水氾濫）は、大雨で川の水があふれて流れ出し、川の外側で浸水がおきる水害です。あふれた水の流れで堤防が壊れることもあり、家が壊れたり流されてしまうような大きな被害が発生することがあります。

大雨が降り続けると、内水氾濫と洪水（外水氾濫）がどちらも発生することがあります。一般的に洪水（外水氾濫）の方が浸水の被害が大きいので、内水氾濫だけを考えると避難すると、洪水が発生した時に安全に避難できないおそれがあります。また、大雨の際には土砂災害が起きやすくなるので、身の周りや避難経路上にある土砂災害警戒区域にも注意しましょう。

水害リスクと避難行動を確認しよう

水害リスクと避難場所の確認

- このハザードマップを使って、自宅や身の周りの浸水の深さや範囲、正しい避難行動を確認しましょう。
- 安全な避難場所や、避難場所への避難経路を確認しましょう。避難場所は、一つだけでなくいくつか知っておくと避難の安全性が高まります。
- 水害の状況により、市が発令する避難情報や、開設される避難場所は違います。避難する前に、市のホームページなどで状況を確認しましょう。

適切な避難行動を確認

予想される浸水の深さ、建物の場所・高さによって、適切な避難行動は異なります。自分にとって正しい避難行動を知りましょう。

浸水の危険性が高い場所を避ける

低い場所への浸水

高架下を通るアンダーパスは、大雨時に水が溜まりやすく危険です。裏面の地図には、アンダーパスなどの水が溜まりやすい危険な場所を示しています。

地下への浸水

地下は外の様子が確認しづらいので危険です。また、地上から水が流れ落ちてきたり、停電や水圧でドアが開かなくなることがあります。避難する時は、地下を避けるようにしましょう。

屋内安全確保（垂直避難）

浸水の深さが浅い場合は、建物の上階に避難するのが安全なことがあります。裏面のマップで身の周りのどのくらいの高さで浸水するかを確認しましょう。浸水深がひざより低くても、水の流れが速いと歩けなくなります。無理に外に出ないで、今いる建物の上階に垂直避難しましょう。なお、平屋の場合は、早い段階で近くの高く頑丈な建物等に避難しましょう。

2階以上へ垂直避難

どこに立退き避難するかを確認しよう

- 裏面のマップを見て、身の周りの近くにある避難場所や、水害の危険性の低い場所を確認しましょう。
- 川が氾濫して浸水が発生する前に、市が指定する避難場所や、浸水の危険性がない場所、もしくは近くの高い建物に避難しましょう。
- 立退き避難する時に、すでに内水氾濫が発生しているかもしれないので、内水ハザードマップもあわせて見て、安全な避難経路を前もって確かめておきましょう。

お住まいの学区の緊急避難場所

水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所

避難場所の開設状況は市のHPなどで確認しましょう
→[防災・気象情報]を調べようを参照

自分の避難先をメモしよう

お住まいの学区の緊急避難場所

〇〇小学校

水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所

記入欄

安全に避難するために心がけること

1 浸水が始まる前に避難をしよう

2 川や橋には近づかない！

3 側溝やマンホールには注意！

4 車での避難はひかえよう！

5 高齢者や障がいのある方などの避難の手助けを！

6 1人での避難はひかえて周囲の人に声をかけよう

7 動きやすい格好で避難しよう

避難情報と住民がとるべき行動

洪水の危険性が高まった地域には避難情報が出ます。その地域にいる人は、早めに避難しましょう。一方で、局地的な大雨や突発的な土砂災害の場合には、避難情報が出ない場合もあります。避難情報がなくても普段の雨と違うと感じたら早めに身の安全を守る行動をとみましょう。

警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
状況	今後、気象悪化のおそれ	気象状況の悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生または迫迫した状況
チェックすべき情報	天気予報 雨雲の動き 早期注意情報	大雨注意報 氾濫注意報 (氾濫警戒情報)	大雨警報 氾濫警報 (氾濫警戒情報)	大雨危険警報 氾濫危険警報 (氾濫警戒情報)	大雨特別警報 氾濫特別警報 (氾濫警戒情報) 緊急安全確保

※氾濫注意報（洪水予報河川）・氾濫注意情報（水位周知河川）は、いずれも氾濫注意水位に到達したときに発表されます。氾濫警報（〃）・氾濫警戒情報（〃）は、いずれも避難判断水位に到達（又は見込み）したときに発表されます。氾濫危険警報（〃）・氾濫危険情報（〃）は、いずれも氾濫危険水位に到達（又は見込み）したときに発表されます。

雨が降り始める → 大雨の継続 線状降水帯の接近 → 内水氾濫の発生！ → 洪水（外水氾濫）の発生！ → 避難行動の確認 → 避難の準備を行う 高齢者や支援者は避難する → 危険な場所から全員避難する → 命の危険！ 直ちに安全確保

※避難情報の発令基準は、「京都市避難情報判断・伝達マニュアル」に記載

マイ・タイムラインを作る

災害時に、自分が何をするかを事前に決めておいたものが「マイ・タイムライン」です。

- いつ起こるかわからない水害に備えて、マイ・タイムラインを作っておくと、逃げ遅れを防いで、ご自身や家族を守ることにつながります。
- 市では皆様のマイ・タイムライン作成を支援するページを公開しています。ぜひアクセスしてください！

京都市マイ・タイムライン

避難情報の伝わり方

京都市

緊急速報メール、テレビ（データー放送）、電話、ファックス、インターネット、SNS、防災・防犯メール

自主防災会、住民の皆様（避難行動要支援者（高齢者や障がいがある方））

ご自身に合った手段で避難情報を受け取りましょう

避難のタイミングを逃したら

避難場所でもなくとも、近くの高くて頑丈な建物に避難しましょう

自宅の2階以上で斜面から離れた部屋に避難しましょう

土砂災害を警戒

防災・気象情報を調べよう

防災・気象情報は、国や京都府、市役所から発信されます。これらの情報には、配信された情報を受け取るプッシュ型と、自分で調べるプル型があります。状況に合った情報収集を確認しましょう。

配信情報を受け取る（プッシュ型）

緊急速報メール

防災情報が携帯電話に届きます。

防災・防犯情報メール（京都府）

防災情報などをメールでお知らせします。利用するためには事前登録が必要です。

自分から調べる（プル型）

京都市防災ポータルサイト

ハザードマップや防災情報のほか普段から役立つ情報を見ることができます。

京都府河川防災情報

京都府域の河川水位や雨量、洪水予測、河川カメラ映像を見ることができます。

京都市防災ポータルサイト

×（旧Twitter）のアカウントです。フォローすることで、防災情報を見ることができます。

京都市の防災気象情報（気象庁）

市内の警報・注意報や、雨雲の動き、雨量などを見ることができます。

洪水キキクル（気象庁）

大雨による洪水発生の危険度を知ることができます。

テレビやラジオを視聴する

テレビでdボタンをおすと、防災・気象情報を見ることができます。

情報収集で避難行動の安全性を高めよう

線状降水帯による集中豪雨など、予測が難しい大雨によって発生する内水氾濫や小さい河川の洪水が増えています。こうした水害では、これまでと同じ情報収集だけでは避難が間に合わないことがあります。キキクルや雨量レーダー、河川カメラの情報を活用して、命を守るための避難行動をとみましょう。（洪水氾濫の場合は、洪水キキクルを見てください。）

洪水

洪水キキクル

雨量レーダーでは、線状降水帯の動きを確認できます。

河川カメラでは、大きい河川のほか、小さい河川の様子も確認できます。

日頃から備えよう

避難時に持っていく物と備蓄の確認

- 避難時に持っていく物は、日頃から準備してすぐに持ち出せるようにしましょう。
- 持っていくものは、必要なものを選び、1つのリュックサックにまとめましょう。
- 家の中で避難する場合に備えて、食料品や飲料水などは普段から多めに用意して、日頃から使いながら買い足すことで、いつでも利用できるようにしておきましょう。

避難時に持っていく物と備蓄品のチェックリスト

避難時に持っていく物	備蓄品
☐ 現金類 避難時に持ち出す現金をまとめて「1日3万円」はあれば大丈夫です。	☐ 飲料水（1人1日1リットル） ☐ 食料品（3日分） ☐ 避難用バッグ ☐ 避難用靴 ☐ 避難用帽子 ☐ 避難用マスク ☐ 避難用タオル ☐ 避難用ハンカチ ☐ 避難用手袋 ☐ 避難用靴下 ☐ 避難用スリッパ ☐ 避難用靴擦れ防止剤 ☐ 避難用靴擦れ防止剤

※リストの内容は一般的な例です。自分が必要とする備蓄品や災害時に持ち出す物をあらかじめ考え、備えておきましょう。※食料品は最低でも3日分、できれば1週間分程度を備蓄しましょう。※災害時非常持ち出し品は、あわせて持ち出せるように、あらかじめリュック等にまとめておきましょう。

浸水への備え

身の周りの対策で被害を防ぐ

側溝などをきれいにし、ゴミや葉で詰まらないようにしましょう。また、ふたの上にブロックなどの物を置かないようにしましょう。

まるとまちごとハザードマップを探してみよう

「まるとまちごとハザードマップ」は街中の電柱や建物に、どこまで水がくると知らせる看板です。街を歩くときに探してみてください。WEB版のハザードマップでも見られます。

避難訓練に参加する

京都市では、市役所と市民と一緒に参加する防災訓練がこなわれています。訓練に参加して、防災意識を高めましょう。

地域で助け合う（共助）

お年寄りや体の不自由な人、幼い子供、妊娠している人、外国の人には、周りの人が声をかけて、安全確認や避難行動で助け合いましょう。